

BRIDGE KIDS PROGRAMS

【BRIDGE KIDS PROGRAMS の通常事業説明】

APCC が提供する BRIDGE KIDS PROGRAMS は、招へい型の『BRIDGE Summer Camp』と派遣型の『BRIDGE Challenge Trip』の二つを柱に、子ども達だからこそできる国際交流を行っています。

『BRIDGE Summer Camp』では毎年7月に30以上の国と地域から11歳の子ども大使と呼ばれる子ども達や引率者、また元子ども大使であるピース大使が来福し福岡県・市内の様々な地域で異文化交流を繰り広げています。

派遣型の『BRIDGE Challenge Trip』は、毎年春休みと隔年の夏休みの期間を利用して小学5年生～高校生の日本の子ども達を、長年 APCC と交流がある海外の国や地域に派遣し、ホームステイなどを通して現地の生活や文化に肌で体験する機会を提供しています。



BRIDGE Summer WEB Camp 2020

【BRIDGE Summer WEB Camp の全貌説明】

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、『BRIDGE Summer Camp』が中止となったため、APCCならではのリソースと現代の発達したインターネットのツールを活用し、以下の対面ではない新しい形での異文化交流のプロジェクトを提供しました。

- ◆ こどもの興味喚起へ繋がる“BRIDGE Question Exchange”
- ◆ アートを通しておもいやりの心を涵養する“OMOIYARIの絵プロジェクト”
- ◆ 異文化を目で見て楽しむ“オンラインパフォーマンスイベント”
- ◆ ピース大使たちによるグローバルネットワークを促進させる“バーチャル PA キャンプ”



APCC

NPO法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡

BRIDGE KIDS PROGRAMS

BRIDGE Summer WEB Camp 2020

BRIDGE Question Exchange (BQE)

質問と
回答の一部を
ご紹介♪

世界中の子ども大使達と福岡の子ども達が、互いに質問を投げかけたり、また答えたりすることで、海外や異文化について興味関心を高めてもらおう企画。質問のキャッチボールの中で、他国や地域との違いや共通点を知る楽しさを知ってもらおうきっかけを提供しています。
今回、日本を含む17カ国・地域、全21団から質問と回答が集まりました！ その一部を紹介します。

Q1

朝食は何を食べますか？



Q3

あなたの国ではどんな挨拶をしますか？



Q5

あなたが世界共通だと思うものはなんですか？



感想

- 世界のお友達の回答をみる事ができてたのしかった。(小6・参加者)
- 国によってイラストの色使いが違い、面白かった。(小6・参加者)
- ともと一緒に世界のお友達について考えたり、子ども自身の考えを聞く事ができて、とてもいい機会になった。(保護者)

すべての質問 & 回答はこちら→



BQE
参加者

海外……………BRIDGE Summer Camp 2020子ども大使/引率者
—全20団 (16カ国・地域) 中国/香港/台湾/シンガポール/フィリピン/タイ/マレーシア/
インドネシア/インド/スリランカ/オーストラリア/ハワイ/フィジー/ミャンマー/
モルディブ/クック諸島/オークランド/アトランタ/江蘇省/ボルドー
日本……………BRIDGE Summer Camp 2020 ホストファミリー/FUKUOKA KIDS (応募者)
BRIDGE Challenge Trip 2020 団員

We are the BRIDGE

「OMOIYARI」を絵にしよう!

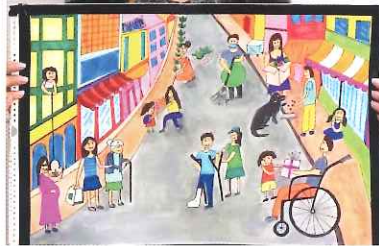
“OMOIYARI” Art Contest

～18カ国・地域より、319作品が集まりました～

私達 APCC がビジョンに掲げる『OMOIYARI』の心は、決して国際交流の場だけで必要とされるものではなく、日常生活を送る上でも大切なことです。違いを認め助け合い、相手を思いやる気持ちは、コロナ禍だからこそより一層必要となるはず。その大切さを改めて考え、普段は目に見えないおもいやりの心を絵に表現し、理解を深めるきっかけを提供しました。

また、『OMOIYARI』という一つのテーマで世界中から集まった絵画を見ることで、様々なおもいやりがあることを知ることもできます。

プロジェクトへは、日本を含む18カ国・地域から319点の絵画が集まりました。更に、入賞作品の選考には、APCCを応援してくださっているふくや、ピエトロ、久原本家や、福岡出身のアーティスト吉永有里さんにもご協力をいただきました。



参加者内訳

日本172(賀茂小・田隈小舎)、インド88、
バングラデシュ12、ミャンマー6、
パキスタン5、スリランカ5、台湾4、
ネパール4、モルディブ4、アトランタ3、
ボルドー2、カナダ2、中国2、ベトナム2、
オークランド2、フィリピン2、タイ1、
オーストラリア1、ハワイ1、シンガポール1

<作品介绍>

- ① 出身地
- ② 『タイトル』&作者の絵に込めた思い
- ③ 審査員のコメント

ピエトロ賞

- ① インド
- ② 「Helpful and content as everyone should be」この絵はある人が他者、動物、そして母なる大地に思いやりの心をもって手を差し伸べている生活の様々な局面を表しています。
- ③ 構図がしっかりしていて、色使いも良く、「おもいやり」に溢れている、とても素晴らしい絵です。細かい描写も感心いたしました。

久原本家賞

- ① 日本
- ② 「OMOIYARI over the dimension!」もし誰か泣いてたら、何も考えずにそっと「おもいやりの手」をさしたせばいい。みんな、そうして欲しいなという想いで描きました。
- ③ あどけない子どもの行動に、こどもらしさや純粋さが感じられ、心が温まる微笑ましい作品でした。



ふくや賞

- ① 日本
- ② 「明るい世界」地球とたくさんの人々がひまわりで明るくなってほしいという思いをこめました。
- ③ 地球とたくさんの人々がひまわりで明るくなってほしい、という思いを込められた作品で、この女の子の表情にやさしい気持ちがあふれています。

特別審査員賞

- ① 日本
- ② 「ハイタッチ」富士の山を越えてタッチする絵です。横にはロケットが飛んでいてその横の星の絵がうまく書けたと思いました。
- ③ 日本の象徴「富士山」を越えてニョキッと自分から伸ばした手が相手に元氣よくハイタッチしたい!と伝わりました。



実行委員長賞

- ① インド
- ② 「Developing a sense of Omoiari at a very young age」自然を尊重し、年長者に敬意を示すことも私たちを描いたものです。幼い頃におもいやりや理解を深めることが、日常生活の中でどのように重要な役割を果たすことができるかということを示しています。図面の背景でお辞儀をしている姿を表しました。
- ③ あくまで私達人間は、地球や自然の中で生きる多くの生命の一員であり、あらゆるものへの感謝の気持ちを忘れてはいけないことを感じました。また、手を合わせることでその感謝の意味と、循環を表現されているようにも感じました。構図と共に明暗をうまく使った印象的な絵でとても素晴らしいです。



応募作品を公開していますので、
世界各地から届いた OMOIYARI を
のぞいてみてください!!



We are the
BRIDGE

つなげます。世界の夢を

OMOIYARIの心を大切に

過去の体験
イベント

ふくや

福岡名物明太子作り (2015年)

福岡名物辛子明太子を製造するふくや(福岡市博多区)の協力で、2015年に日本のピース大使が組織するブリッジクラブジャパン(BCJ)と海外のピース大使の交流がありました。ふくやがプロデュースする「博多の食と文化の博物館(ハクク)」で明太子の工場を見学し、福岡の食文化や歴史を学習。好きなスパイスを使ってオリジナルの明太子づくりも体験し、福岡特有の文化を学び交流を深めました。



過去の体験
イベント

ピエトロ

料理を通して、食文化交流 (2018年)

ドレッシングの製造やレストラン事業で新しい食文化を提案するピエトロ(福岡市中央区)のサポートの下、2018年に食育プロジェクト「ピエトロ料理教室」を実施しました。参加した子ども大使とホストファミリーは、納豆など和の食材とコーンやミニトマトなどの食材をトッピングしてドレッシングをかけ、サラダパスタを作りました。料理を通じた異文化交流に参加者は充実した表情でした。



過去の体験
イベント

久原本家

見て作って伝統食を楽しむ (2018年)

1893(明治26)年創業の醤油蔵を原点とする久原本家(福岡県久山町)の協力で2018年、子ども大使とホストファミリーを対象に「味噌汁教室」を開催しました。同社の醤油蔵を見学し、日本の伝統的な調味料やだしについて学んだあと、味噌に好きな食材を入れて味噌汁を完成させました。作ったばかりの味噌汁を溶かした味噌汁などの昼食をみんなで囲み、日本の食を興味深く味わっていました。



過去の体験
イベント

LIXIL (リクシル)

土に触れ だんごに夢中 (2017~19年)

水まわり製品や建材製品を開発、提供し人々のより良い暮らしに貢献する企業「LIXIL(リクシル)」のショールーム福岡(福岡市博多区)の協力で、2017~19年に「LIXIL 光るだんご教室」のワークショップを開きました。

子ども大使と引率者が参加。17年はバキスタン、中国、広州、アトランタの24人、18年はシンガポール、バプアニューギニア、ブータン、マレーシア・イポー市の24人、昨年はオーストラリア、キャンマ、タヒチから15人が集い、累計は63人に上ります。

「光るだんご」は焼き物用の粘土が材料です。丸めた粘土の表面を道具で凹凸がなくなるまで削り、土を塗った後、さらに表面を磨いて光沢を出します。子どもたちはLIXILの社員に教わりながら夢中で制作。土に触れてもらうことで自然素材の魅力や「ものづくり」の楽しさを発信しました。また、ショールームを案内された子どもたちは、先進技術に驚いた様子でした。



NPO法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡(APCC)主催
BRIDGE KIDS PROGRAMS 2020 へのご支援、
ご協力、誠にありがとうございました。
今後とも、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

We are the **BRIDGE**

つなげます。世界の夢を



NPO法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡
理事長 麻生 泰

APCCはこれまで32年間、福岡の子ども達へ国際交流のきっかけを提供してまいりました。今年3月、派遣型事業「BRIDGE Challenge Trip」では初めての派遣先であるペルーを含む8カ国地域へ福岡の子ども達120名を、7月の招聘型事業「BRIDGE Summer Camp」では、初参加のキルギスを含む36カ国・地域より47団257名の海外参加者を、この福岡に迎え、学校登校やホームステイ、各種事業を通して福岡県市民と交流を深める予定でした。

しかし、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスによる影響のため、参加者の安全を第一に考え、同事業の中止を決断致しました。同事業中止というのはAPCCの歴史の中でも初めてのことで、

今年是对面での交流は叶いませんでしたが、インターネットをフルに活用したオンラインでの交流事業「BRIDGE Summer WEB Camp」を実施致しました。

子ども大使らのパフォーマンスをネット配信するオンラインパフォーマンスイベント、海外と福岡の子ども達が互いに質問を合うBRIDGE Question Exchange、そして、コロナ禍の今だからこそAPCCの掲げるOMOIYARIの気持ちを表現するOMOIYARI絵画プロジェクト、各事業の写真や動画をAPCCのホームページで公開し、活動の様子を世界中のみなさんの目に触れる形で提供できたのも、WEBを使った事業ならではの功績だと感じております。

今後もAPCCではグローバル社会を担う福岡の子ども達へ、より広い視野、好奇心、向上心を身に付けてもらう活動を続けて参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



アジア太平洋子ども会議・イン福岡 支援の会
会長 明石 博義

今年のアジア太平洋子ども会議・イン福岡(APCC)は、残念ながら新型コロナウイルス感染の世界的な拡大の影響により、予定していたさまざまな事業について中止せざるを得ない事態となりました。

中でも、APCCが主たる事業として取り組んでいる海外の子ども達を招いて行うBRIDGE Summer Campや福岡の子ども達を海外に送り出して現地での子ども達と交流を行うBRIDGE Challenge Tripが中止となりましたことは本当に残念なことでした。

既に参加が決定して新たな出会いを心待ちにしていた国内外の子ども達の間で、心当たりが痛みありますが、いつの日かその思いが叶うことを祈りたいと思います。

一方で子ども達が集っての交流は中止となりましたが、APCCではインターネットを介してウェブ上で子ども達の交流と連帯を深める新しい試みにも取り組んでおり、成果に期待したいと思います。

コロナ禍には多くの方がご苦勞をなさっていらっしゃると思いますが、このような状況下にも拘わらず、今年もたくさんの方々から「アジア太平洋子ども会議・イン福岡 支援の会」に変わらぬご支援をいただきました。誠に有り難く心より厚くお礼を申し上げます。

「支援の会」といたしまして、APCCがこの困難を乗り越え更に発展いたしますよう支援助けてまいりたいと存じます。

皆様のご支援に感謝申し上げます。お礼の挨拶といたします。

◎未来を担う子ども達の為、ご賛同頂ける企業・団体・

BRIDGE CLUB(BC)

BC の紹介

1998年、APCC10周年を記念して結成された、国境を超えた地球市民のネットワーク組織です。「国際的な視野を持つリーダーの育成」「政治・宗教・個人的利益にとらわれない地球市民のネットワークづくり」「世界中に友情の輪と平和な社会をつくる」という三つの目標を掲げ、元こども大使である各国・地域のピース大使(PA)を中心に活動しています。それぞれの国・地域の実情に応じた社会奉仕や人道援助、文化交流、教育など様々な取り組みを展開。現在では、世界で41の国と地域にBRIDGE CLUBと各国地域のBRIDGE CLUBを束ねる国際本部「BCIO(BRIDGE CLUB International Organization)」も設立され、国境を超えた活動が年々活発になっています。

2020年 BRIDGE CLUB 行った活動

CREATING IMPACT THROUGH BRIDGE CLUBS

The only limit to your impact is your imagination and commitment. (T.Robbins)



● バーチャル PA キャンプ

今年の7月に対面で予定されていたPAのミーティングがZoomを使ってオンラインで開催されました。初めてのオンラインでのミーティングでしたが、この会議を経たことで国や地域が違ってもしっかりと気軽にBRIDGE CLUB同士が繋がれることを認識することができました。

● オンライン BCPN(BRIDGE CLUB Professional Network)

APCCの事業がスタートして、32年。初期の事業に参加したこども大使達は40歳を超えました。また、これまで招へいしてきた海外参加者の数は1万人を超え、半数以上が大学を卒業し社会に出て活躍しています。彼らの専門的な知識や経験、アイデアを交換する場を作り、BCのネットワークを使ってグローバルブリッジリーダーの育成に繋がる場を提供しようと、BCメンバーを対象としたグループ活動をスタートさせました。

今年BCPNでは、7月から2ヶ月に1度、ウェブを使ったセミナーを開催しています。

第1回目(7月)には、『国境を超えた視点でのポストコロナビジネス』というテーマで約30名が参加しました。会社を経営している第4回目のバングラデシュ出身の元こども大使が講師となり実体験から、コロナ禍でどうやって自分のビジネスを転換させていったのかについて話をしました。

第2回目(9月)には『キャリアを考える』というテーマで、コンサルティング会社に勤めるネパール出身の第11回目のこども大使や貿易会社の人材育成部門で働いているモルディブ出身の第8回のこども大使が講師となり、40名を超えるメンバーがウェブセミナーに参加しました。



#2 DEVELOPMENT SERIES

CAREER ORIENTATION WEBINAR

How to stand out from the crowd in headhunters' eyes?

19th SEPTEMBER, 12PM - 1PM JST



● オンラインファッションショー

2020年度選出のPA達が自国の伝統衣装を身にまとい、紹介する動画を作成。Youtube上でオンラインファッションショーを配信しました。

多種多様な伝統衣装を見ることができるだけでなく、現地で撮影された映像に映り込む背景などでも各地の特徴が出ていて、例年のファッションショーに加え見どころ沢山の動画になっています。こども大使達によるオンラインパフォーマンスもYoutubeにて公開していますので、是非御覧ください。

APCC

NPO法人 アジア太平洋こども会議・イン福岡

TEL:092-734-7700 FAX:092-734-7711

〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館5F

E-mail info@apcc.gr.jp URL <https://www.apcc.gr.jp/>